



学校だより



9月号

認めて ほめて 温かいかわりを

9月1日。それは、今まで静まり返っていた学校に、元気な子供たちの声が響きわたり活気が戻ってくる日。いよいよ2学期のスタートです。そして、9月2日、明日は、湊山小学校から分離して、ちょうど100周年目にあたる記念日です。この間、社会の変化とともに学校のあり方も変わったことでしょう。しかし、今もなお、地域の方々に愛されているということは、「おらが学校」という思いが強く、「子供たちは地域の宝」という意識で、学校を温かく見守り支えてくださったおかげだと思います。その時その時の方々が、先人の思いを受け継いで、100年という歴史を刻んでこられたということを感じずに入られません。そこには「子供たちが心身ともに健康に育ってほしい」という不変の願いがうかがえ、子育てに関わるものとしてはとても心強く思います。

統合まであと7ヶ月。子供たちが、明るく生き生きと毎日を過ごせるよう、今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。

さて、「人間形成には、環境が大きく影響する」ことは誰もが知っているとおりで。子供にとって身近である家族や教師は、一番の教育環境だといえます。十数年前、ドロシー・ロー・ノルトの著書「子供を育てる魔法のことば」がベストセラーになったのを思い出します。19項目ありますが、どれをとっても、「なるほど」と頷けることばかりで、環境が子供の人格形成に大きく影響していると感じずにはいられません。そして、思うのは、「子供は大人に言われたとおりに育つのではなく、大人のすることを見て育つ」ということです。周囲の大人の言動を真似ていくということです。まさに、「子供は親の鏡」です。かかわり方しだいで子供の育ちは変わってきます。

大人に心や時間のゆとりがないと、下記のようにマイナス影響を与えがちです。

- ・けなされて育つと、子供は人をけなすようになる
- ・叱りつけてばかりいると、子供は「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
- ・不安な気持ちで育てると、子供も不安になる

しかし、穏やかな気持ちでかかわると、次のように子供の心は豊かになるようです。

- ・ほめてあげれば、子供は明るい子に育つ
- ・認めてあげれば、子供は自分が好きになる
- ・分かち合うことを教えれば、子供は思いやりを学ぶ

以上は、著書的一部分ですが、「子供は認め、ほめて伸ばしたい」ことがうかがえます。しかし、子供には「しかられる権利」もあります。大人が子供の現状をしっかりと捉え、温かいかわり方をしていきたいと感じました。